



Environmental
Report
環境報告書 2013

その不断なる営みが、SMKの未来を拓く。

エコロジーとエコノミー。

私は、この両者が対立概念だとは考えません。ともに、ギリシャ語で“家”を表す「oikos」を語源とする言葉。日々の営みからムダ・ムラ・ムリを排すること—経済的合理性を追求すること—が、環境的持続性に結びつく。

SMKの事業も同様と考えています。

私たちの使命は、ものづくりを通じて未来社会へ奉仕すること。これは言うまでもありません。だからこそ、例えば、原子力に代わる自然（再生可能）エネルギー分野や、HEMS (Home Energy Management System) をはじめとした省エネ分野、さらには電気自動車に象徴される低カーボン分野へと、持てる経営資源を投下し、環境負荷の低減・抑止およびリサイクルを円滑化するための製品づくりに尽力してきました。

そうした活動の結果、企業の環境対策を総合的に評価する環境経営度ランキング(日本経済新聞社)において、SMKは毎年高い評価を得ております。これは地道な活動と意識変化が集積された成果に他ならないと自負しています。しかしながら、弱い分野については事実を謙虚に受け止めて、強みに変えていかなければなりません。

今年5月、国連は大気中のCO₂濃度が危険水域(400ppm)に達したとの声明を発表。それは地球の温

代表取締役社長

池田 靖光



暖化が、もはや国家や企業の利害関係を越え、人類全体で取組まねばならぬテーマとなったことを意味します。SMKも例外ではありません。温暖化ガスの新たな算定基準「スコープ3」導入の取組みや、生物多様性を保全するスキームづくり、ゼロ・エミッションへの取組みなど、課題は山積みです。しかし、私たちの事業そのものが、地球環境のサステナビリティなくして成立し得ないのも一面の真理。だからこそ不断に、一步一步課題へと向き合っていく姿勢こそが、いま私たちに求められると考えています。

社員には一層の奮起を。ステークホルダーの皆さまにはご共助を。私たちSMKの未来に、どうぞご期待ください。

2013年 7月

Contents

トップメッセージ	1
環境担当役員メッセージ	2
環境マネジメント	3
2012年度環境保全活動総括	4
マテリアルバランス	4
省エネルギー・省資源への取組み	5
環境会計	7
トピックス 環境報告書 創刊10周年を迎えて	7
省エネルギー・省資源活動	8
環境に配慮した製品づくり	9

本報告書について

対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)

集計範囲

国内事業所

- ・本社(戸越・ゲートシティオフィス)
- ・大阪支店
- ・名古屋支店
- ・茨城営業所
- ・北陸営業所
- ・福岡営業所
- ・富山事業所・富山テクノロジーセンター
- ・ひたち事業所
- ・茨城事業所

国内関連会社

- ・富山昭和(株)
- ・(株)昭和電子

海外事業所

ASIA

- ・SMK High-Tech Taiwan Trading Co., Ltd.
- ・SMK Electronics (H.K.)Ltd.
- ・SMK Trading (H.K.)Ltd.
- ・SMK Electronics (Dongguan) Co., Ltd.
- ・SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.
- ・SMK Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.
- ・SMK Electronics Singapore Pte. Ltd.
- ・SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
- ・SMK Electronics (Phils.) Corporation

EUROPE

- ・SMK Europe N.V.
- ・SMK Europe N.V., U.K.Branch
- ・SMK Hungary Kft.

NORTH AMERICA

- ・SMK Electronics Corporation U.S.A.
- ・SMK Manufacturing, Inc.
- ・SMK Electronica S.A. de C.V.

CO₂排出量について

換算係数は、国内事業所は電気事業連合会に、海外事業所はGHGプロトコルに準拠します。

企業情報の入手方法

会社案内、IR情報、製品紹介、過去の環境報告書はSMKホームページで公開しています。

<http://www.smk.co.jp/>

〈問い合わせ先〉 SMK株式会社 環境室 TEL.(03)3785-5058 FAX.(03)3785-0517

「強さ」の源泉とは何でしょうか？

自らがより高い企業競争力を得るには、より厳密な自己洞察が欠かせません。すなわち私たちの持つ力を知ること。

私たちは、製品開発においても環境に貢献することを追求しています。省エネ、創エネ、蓄エネ等の用途を満たせる製品を提供すること。世の中のニーズを満たすことが、製造業としての務めと考えています。また、製品そのものも省エネ、省資源、高効率でなければいけません。SMKでは「エコ商品」としてこれらの基準を導入しています。そして、私たちの活動の環境への寄与を見える化するシステムも構築しました。数値によって客観評価し、製品対策の改善へ向けた一助となる指標です。

加えて、私たちが目配りすべきフィールドは、ものづくりの工程のみに留まりません。

オフィスにおける省エネルギー、原材料や製品の輸送・保管、さらには外部委託分をも含めた温暖化ガスの総量。これらを対象とした新たな国際基準「スコープ3」が発行されました。私たちも、これを順次取入れていかなければならないと考えています。

2011年の東日本大震災以来、私たち企業が背負う社会的・道義的責任はいつそう強まった感があります。また、2012年に開催されたCOP18（第18回気候変動枠

環境担当役員

角 芳幸



組条約締約国会議)では、2020年以降の枠組み交渉計画についての本格交渉が始動しました。欧米・アジア諸国など世界各地に製造拠点をもちSMKにとって、「環境」および「持続的発展」というキーワードは、今後、より大きな意味合いをもたらすことでしょう。

私たちは、より高い目標を自らに課し、地球環境と調和した企業経営を推進していきます。

お手元の当報告書は、今後の目標を確認し合うための試金石だとも言えるでしょう。是非ご一読いただき、忌憚のないご感想を賜ることができれば幸いです。

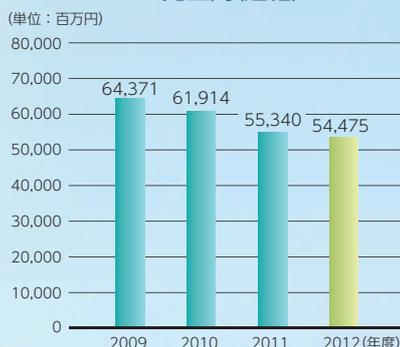
2013年 7月

会社概要 (2013年3月31日現在)

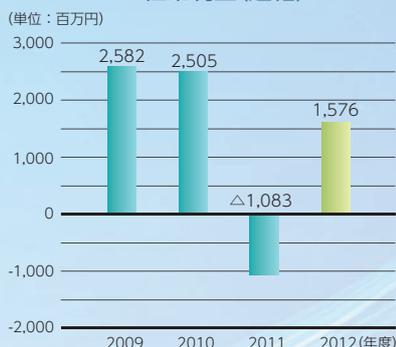
商号	SMK株式会社
英文社名	SMK Corporation
創業	1925年(大正14年)4月
設立	1929年(昭和4年)1月15日
主な事業	電気、通信および電子機器その他産業機械、情報機器等に使用される各種電子機構部品の製造販売
資本金	7,996百万円
社員数	9,850名(グループ)
本社	〒142-8511 東京都品川区戸越6丁目5番5号 TEL.(03)3785-1111(代表) FAX.(03)3785-1878 ホームページアドレス http://www.smk.co.jp/

主な製品	スイッチ/リモートコントロールユニット/キーボードユニット/コントロールパネルユニット/エレクトレットコンデンサマイクロホン/イヤホンマイクアセンブリ/カメラモジュール/ACアダプター/アンテナ/圧着コネクタ/FPC・FFCコネクタ/基板対基板コネクタ/高周波同軸コネクタ/インタフェースコネクタ/カードコネクタ/電源コネクタ/ジャック・ピンジャック/外部電源ジャック・プラグ/ヒューズホルダー/太陽電池モジュール用コネクタ/LEDコネクタ/抵抗式タッチパネル/光学式タッチパネル/静電容量式タッチパネル/Bluetoothモジュール
------	---

売上高(連結)



経常利益(連結)



当期純利益(連結)



SMKグループ環境憲章

1. 基本理念

SMKは良き企業市民として社員一人ひとりが地球規模で持続的発展が可能な社会に寄与するという自覚を持ち、総合的な高度技術により経済発展と環境保全の両立に努めます。

2. 行動指針

- (1) 環境にやさしい製品の開発をします。
- (2) 物を大切に、廃棄物を減少させます。
- (3) 資源を大切に、エネルギーを節約します。
- (4) 3R (リデュース・リユース・リサイクル) を推進します。
- (5) 無駄のない購入・生産をします。

環境保全推進体制

SMKの環境保全に関するグループの方針、目標、施策は環境担当役員を委員長とする「環境保全委員会」と、重要事項については執行役員会で審議、決定し、国内外の事業所に展開されます。各事業所ではグループの方針、目標、施策を受け、さらに固有の課題も取入れて「事業所環境保全委員会」で事業所の方針、目標、施策を定めて活動を行っています。

環境マネジメントシステム

SMKの環境マネジメントシステムは国際規格であるISO14001に基づいており、国内の全拠点、海外の全生産事業所で認証を取得しています。

2007年度からは、各拠点での活動に加え、全グループ共通の目標、テーマを設定して拠点間のつながりを強化し、グループ全体のシステムの高度化を図ってきました。

また、環境保全活動はグループ内にとどまらず、2004年に初版を発行したグリーン調達ガイドラインでは、協力会社様にも活動推進をお願いしています。具体的には、SMKが禁止する環境負荷物質の不使用をお約束いただくとともに、ISO14001に基づく体制の構築をお願いしています。ISO14001の認証を取得されていない協力会社様に対しては、環境保全活動の実施状況を訪問して確認し、改善指導を行っています。

環境教育

環境教育は、グループ全体で実施している階層別教育や、専門教育のカリキュラムのひとつとして実施している他、各拠点でも年間計画を立てて実施しています。

また、東京商工会議所主催の「環境社会検定試験 (eco検定)」の取得を社員に推奨しています。部門における資格取得率5%以上の育成計画を立て、2006年の第1回試験から毎年受験者を募り、テキストの購入、受験料の負担などのバックアップをしています。

環境保全組織



協力会社懇談会での環境担当役員のスピーチ



社内講師による内部監査員教育(本社)

2012年度環境保全活動総括

SMKでは、国内外の全事業所において環境保全に関する活動目標を制定し、その達成に向けた改善活動を推進しています。2012年度における主な活動目標と実績を下表に示します。

地球温暖化防止

CO₂排出量については、空調機の省エネ型への入替え、一部生産事業所の統廃合による効率化を図りましたが、海外生産事業所においてクリーンルームでの製造を要するタッチパネルの生産増や成形工程の稼働率が上がったことにより、生産高CO₂原単位は増加、CO₂総排出量は前年並みの実績となりました。今後は、省エネ機器の導入に加え、エネルギーマネジメントの一環としてエネルギー使用状況の見える化を促進し、削減に繋げることも課題です。

生物多様性保全

協力会社様を含めた電子部品業界のサプライチェーンにおいて取組める生物多様性保全活動を検討しましたが、実施には至りませんでした。2013年度には活動の方向性を決めグリーン調達ガイドラインを改定する予定です。

資源の有効活用

製造工程における“ムダ取り”活動の推進により廃棄物総排出量は若干減少を図れた反面、前述の生産事業所統廃合による不要物を廃棄した影響により生産高廃棄物原単位は若干増加の実績でした。埋立処分量については、海外事業所において排水処理装置の稼働率アップにともなう汚泥の排出増により、大幅増加となりました。

環境関連物質管理の確実な対応

製品部材情報を、より効率的に管理を行いEU-REACH規則などへの対応力を強化するため、より高度な管理システムを目指し、ソフトウェアの導入検討を継続中です。

環境配慮設計の促進

今年度は環境配慮設計の配慮事項をカテゴリ一別で管理するシステムを構築し、運用を開始しました。

取組み項目	2012年度		自己評価
	目標	実績	
地球温暖化防止	生産高CO ₂ 原単位*1を対前年度比11%削減 目標:0.52t-CO ₂ /百万円	7%増加 0.62t-CO ₂ /百万円	×
	CO ₂ 総排出量を対前年度比5%削減 目標:30,249t-CO ₂	±0%増減なし 31,931t-CO ₂	×
	エネルギーマネジメントシステムの導入検討	エネルギー使用状況把握システムの導入検討	○
	LCA(カーボンフットプリント含む)SMK基準の検討	業界動向情報(スコープ3を含め)の入手・分析	×
生物多様性保全	生物多様性保全を考慮した購買活動の検討	電子部品業界の業態に応じた生物多様性保全活動を検討	△
資源の有効活用	生産高廃棄物原単位*2を対前年度比1%削減 目標:0.029t/百万円	3%増加 0.031t-CO ₂ /百万円	×
	廃棄物総排出量を対前年度比6%増加 増加見込:1,726t	2%削減 1,603t	○
	埋立処分量を対前年度比±0%増減なし 目標:92t	23%増加 113t	×
環境関連物質管理の確実な対応	部材構成情報登録・EU-REACH規則対応システムの稼働	より高度な管理システムを目指し、ソフトウェアの導入検討	△
環境配慮設計の促進	製品アセスメントのレベルアップ	環境配慮設計を実施したエコ商品の管理システムを構築、稼働	○

*1: 生産高CO₂原単位 = CO₂排出量/生産高 *2: 生産高廃棄物原単位=廃棄物排出量/生産高 自己評価: ○目標達成 △不十分 ×目標未達成

マテリアルバランス

SMKでは製品の設計・開発、製造、販売など各プロセスにおける環境負荷量のマテリアルバランスを把握・解析し、効率の良い事業活動に努めています。



省エネルギー・省資源への取組み

SMKでは、地球温暖化防止を重要な経営課題として、省エネルギー活動を強化・推進しています。また、資源を有効活用するため、廃棄物排出量の抑制やゼロエミッション化(廃棄物埋立処分量ゼロ化)に取り組んでいます。

省エネルギーへの取組み

- ◎環境保全活動総括で示したように、2012年度は、名目生産高で見る生産高原単位は増加(前年度比107%)、排出量は前年並み(前年度比100%)となりました。
- ◎基準年(2005年度)以降、社内での一貫生産による生産性向上を目的に、部材加工(成形、プレスなど)の内製化(外部委託から移行)を推進しており、内製化を起因とするCO₂排出量は年々増加傾向にあります。その内製化起因の増加量を除いたCO₂排出量では概ね基準年並みとなります。実質生産高(物価や為替レート変動の影響を抑え算出)原単位での評価でも増加しまし

たが、タッチパネル生産の伸びにともないエネルギー消費の大きいクリーンルームの稼働率が上がったことを考慮すると、エネルギー効率は改善基調にあります。

(下の参考グラフ)

	前年度実績比	
	国内	SMKグループ全体
生産高CO ₂ 原単位 (名目生産高)	112%	107%
CO ₂ 排出量	89%	100%

CO₂排出量推移 & 名目生産高原単位推移



参考：CO₂実質排出量推移 & 実質生産高原単位推移



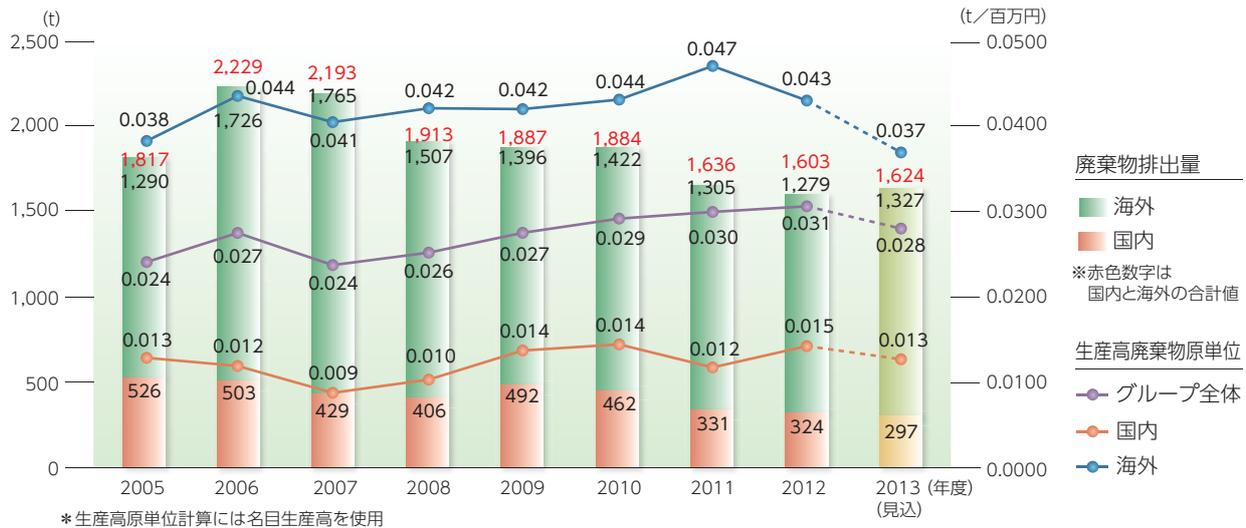
省資源への取組み

◎生産高廃棄物原単位は若干増加(前年度比105%)、廃棄物排出量は若干減少(前年度比98%)の結果でした。実績の分析結果は環境保全活動総括(4ページ参照)で記述したとおりです。

◎埋立処分量は、前述の総括で示した理由により、大幅な増加(前年度比123%)となりました。しかし懸案であったSMKフィリピンのガラス屑は、リサイクルが可能となりました。(下記Topics)

	前年度実績比	
	国内	SMKグループ全体
生産高廃棄物原単位 (名目生産高)	123%	105%
廃棄物排出量	98%	98%
リサイクル量	97%	92%
埋立処分量	—	123%

廃棄物排出量



埋立処分量とリサイクル率



TOPICS

SMK Electronics (Phils.) Corporation (SMKフィリピン)

ガラス屑のリサイクル

タッチパネルの製造工程で発生するガラス屑は、新規に取引を開始したリサイクル会社によりカレット状にクラッシュ、洗浄などの工程を経て原材料と混ぜられ、市場に流通されるフラットガラスに再生されます。実力のあるリサイクル会社を開拓し取引を実現できたことにより、SMKフィリピンの埋立処分量は削減し、リサイクル率は59.4%に増加しました。



環境保全コストと効果

金額単位：百万円

コスト 分類	主な取組み内容	環境保全コスト				経済効果		環境保全効果(物量)	
		投資額		費用額		金額	前年度比	削減量	前年度比
		金額	前年度比	金額	前年度比				
事業エリア内コスト	公害防止	0	—	21.0	92%	0	—	環境負荷物質 使用量30.3t	105%
	地球環境 保全	105.4	358%	37.6	88%	7.9	82%	生産高CO ₂ 原単位 ▲0.04t-CO ₂ /百万円	—
	資源 循環	0	—	27.6	101%	97.5	102%	埋立処分量20.0t 生産高廃棄物原単位 ▲0.001t/百万円	—
	小計	—	—	—	—	—	—	—	—
上・下流	グリーン購入の推進等	0	—	0.1	9%	0	—	—	—
管理活動	製品への環境負荷物質非含有保証活動 環境マネジメントの教育、認定取得活動等	0	—	166.6	96%	0	—	—	—
研究開発	エコ製品開発の推進等	0	—	34.1	68%	0	—	—	—
社会活動	事業所内緑化活動等	0	—	7.9	107%	0	—	—	—
環境損傷	—	0	—	0	—	0	—	—	—
合計	—	105.4	216%	294.9	91%	105.4	100%	—	—

集計方法について：環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」に準拠しました。

環境保全コストについて

2012年度の環境保全コストは、前年度に対し投資は大幅増加、費用は減少となりました。

投資の増加は、クリーンルーム用空調機を最新の省エネ型に入替えたことによります。

経済効果について

2012年度の経済効果は、前年度並みの実績となりました。

環境保全効果(物量削減)について

環境保全効果は4項目とも増加となりました。

環境負荷物質については、タッチパネルの生産増加によりエッチング工程での使用量が増えたことが原因です。その他3項目の増加理由は、環境保全活動総括で示したとおりです。

SMK環境報告書創刊10周年を迎えて

10th Environmental Report

2003年に環境報告書を発行し始めてから、早いもので10年が経ちます。環境報告書を通じ、当社の環境保全活動も大きく変わることができました。

2007年から、日本を含め世界13ヶ国にある全生産事業所、全販売事業所が共通の目標を追求する体制となり、環境報告書の内容もグローバルなものになりました。英文版は2004年から、中文版は2009年から発行しています。

また2012年は、SMKの製品がどのくらい地球環境保護に寄与できているのか、その尺度としてエコ商品比率を月ごとに追いかける仕組みを構築しました。同時に売上も把握でき、本業である電子部品製造での環境・社会への貢献度合いを自分たちで把握し、工夫する土台ができてきました(10ページ参照)。

今後も、環境保全や環境ビジネスへの取組みを推進し、環境報告書を通じてきめ細やかな情報開示に努めて参ります。

環境室 室長 後藤 光彦



省エネルギー・省資源活動トピックス

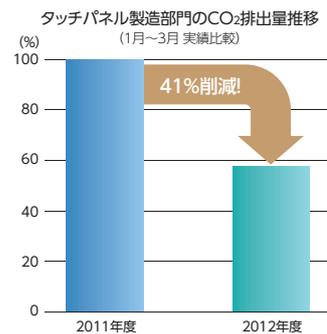
富山グループ (富山事業所、北陸営業所、富山昭和、昭和電子)

2012年夏に、タッチパネル事業部富山事業所クリーンルームの空調機更新と環境改善工事を行いました。

空調機を更新したことで、使用電力量 291,045kwh/年、A重油使用量 34,911ℓ/年を削減することができました。これをCO₂に換算すると196.3t-CO₂/年となります。

クリーンルームの環境改善工事では、クリーンルーム内の温湿度バラツキを抑え、人や物の流れを改善したことで、大幅な歩留まり改善も図ることができました。

今後も省エネルギーと不良低減により、資源の有効活用を図っていきます。



SMK Electronics (Dongguan) Co., Ltd. (SMK東莞)

前年度に引き続き、2012年度も従業員家族を対象とした工場見学会を開催しました。

子供たちは、SMKの製品が携帯電話など身近な電気製品に使用されていることを知り、お父さんやお母さんが仕事している現場を誇らしげな様子で興味深く見学していました。

工場見学の後は、環境保全をテーマにしたアニメーションを上映しました。楽しい雰囲気の中で環境保護の大切さを感じてもらえたと思います。

これからも、従業員やその家族、地域社会とのコミュニケーションを大切にし、社会貢献活動を続けていきます。



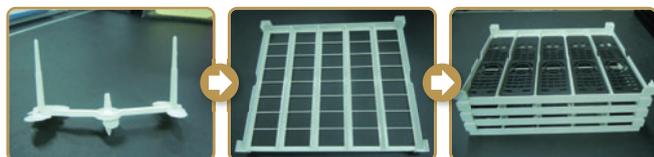
お揃いのSMK帽子を被って工場見学

SMK Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (SMKマレーシア)

2012年7月から、射出成形で排出されるプラスチック廃棄物を利用し、工程内での成形品運搬用トレーを製作する取組みを開始しました。

この活動の効果もあり、プラスチック廃棄物は前年度比53.2%となり大幅に削減することができました。

また、廃棄物の削減だけではなく成形品のサイズに合わせたトレーを製作することで、傷や破損などの運搬時のトラブルも削減することができました。



スプールランナー

リサイクル材による運搬用トレー

成形品をトレー梱包

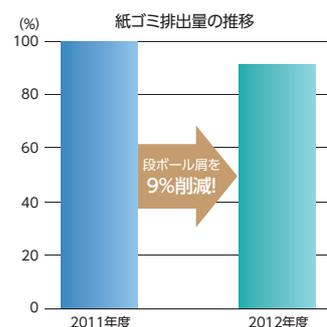
SMK Electronics (Shenzhen) Co., Ltd. (SMK深圳)

協力会社様より部品・材料が納品される際の梱包は使い捨てが多く、特に段ボールは廃棄物の5割を占めていました。

そこで、プラスチックリールとプラスチック段ボールでの通い箱の採用を検討し、2012年8月より数量の多いアイテムから順次切替をスタートしました。

2012年度は生産量増加により廃棄物は増加してしまいましたが、この取組みにより段ボール屑を9%削減でき、廃棄物総排出量の増加量を抑制することができました。

今後も、協力会社様と共に梱包通い箱の採用を拡大する活動を進め、さらなる廃棄物削減に努めていきます。



SMK Electronica S.A. de C.V. (SMKメキシコ)

省エネルギーの促進と持続可能なエネルギー文化の普及を目的とした政府によるプログラム「FIDE*」に参加しました。

このプログラムの一環として、従業員に家庭で使用していた白熱電球を持参してもらい、1,100個の省エネ型電球と交換しました。このことにより、年間51.7tのCO₂排出量を削減することができます。

SMKメキシコは、これからも政府や地域社会、従業員と協力しながら、持続的発展が可能な経済社会の構築に貢献します。



省エネ型電球に交換

* FIDE: FIDEICOMISO PARA EL AHORRO DE ENERGÍA ELÉCTRICA

太陽電池モジュール用コネクタ

太陽電池モジュール間を接続する中継用コネクタです。独自の多点接触構造で優れた接触性能を確保し、また独自の防水構造により工具なしでケーブル防水処理が行え作業性にも優れています。ULおよびTÜV規格認証品です。小型化品、分岐タイプなどレパートリーを拡充しています。



LED照明用コネクタ (COBタイプ) LT-10/LT-11シリーズ

省エネ効果が期待されるLED照明のコネクタです。COBLEDパッケージ用のソケットを開発し、製品レパートリーに追加しました。本製品は、LEDの熱をヒートシンクへ放熱させる下カバーと上カバーの2部品で構成され、組立作業性、信頼性の大幅向上に寄与する構造になっています。



高速伝送対応FPCコネクタ [EN-31シリーズ]

信号伝送速度の高速化が進むデジタル家電やIT機器の高速伝送に対応した0.3mmピッチFPCコネクタです。

高速インターフェイス規格である「MIPI/D-PHY」規格をクリアしており、モバイル機器の高速伝送化に適しています。

RoHS指令、およびハロゲンフリーを考慮した設計、材料選定を行っています。



Micro USBコネクタ (スプリング端子)

スマートフォン・携帯電話等で使用されるMicro USBコネクタです。

基板への接続は端子を基板に押し当て接触するスプリング端子とし、はんだを使わない方式を採用しています。

RoHS指令、およびハロゲンフリーを考慮した設計、材料選定を行っています。



リモコン用無線モジュール

無線リモコンに使用するZigBee®RF4CEモジュールです。従来の無線モジュールから、機能を削減することなく、42%の低消費電力化と15%の小型化を実現いたしました。

これにより、電池交換回数の削減と商品の小型化に貢献します。



水平押しスイッチシリーズ

- ①小型水平押しスイッチ
- ②薄型水平押しスイッチ

スマートフォンおよび携帯電話市場に多く採用されているスイッチです。

ケースとキーシステムの樹脂部に再生材（25%）を使用した、環境にやさしい製品です。また、設計開発段階より環境に配慮し小型・薄型化を実現することで材料の省材料化に繋がり、資源の無駄使いを減らします。

今後は、再生材料使用スイッチレパートリー拡充に取り組んでいきます。



①小型水平押しスイッチ



②薄型水平押しスイッチ

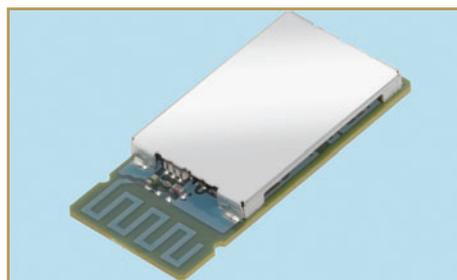
静電容量式 透明タッチスイッチ

ITO(酸化インジウム錫)に代わり、PETフィルム上に有機導電ポリマーにて電極を形成した静電容量式 透明タッチスイッチを開発しました。希少金属であるインジウムを使用したITOの使用量を削減すると共に、センサー部分と出力テール部分を一体化し、部品点数も削減しました。白物家電、事務機等での新たな静電容量式透明タッチスイッチの需要に応えていきます。



無線モジュール

無線モジュールにパワーマネジメント機能を盛り込み省電力化を図ったほか、Bluetooth® SPP Module (BT401) の開発に際してはケーブル接続を無線化し、省資源に貢献します。



TOPICS

エコ商品売上の見える化への取り組み

2012年度より、環境配慮設計を行ったエコ商品の売上や売上比率を把握するシステムを構築し、その実績を社内公開する運用を開始しました。

従来、エコ商品として一括りで管理していたものを、“省エネ化・高効率化”、“省資源化”、“環境保護”、“製造工程の負荷低減”の4つの改善項目をベースとして、項目別にさらに詳細なカテゴリー分けを行い、それぞれの項目別エコ商品の件数、売上および売上比率の見える化を図ったものです。

今後は項目別のエコ商品情報を活用し、SMKの“強い点”と“弱い点”を分析のうえ、改善工夫しながら、環境・社会に貢献できる製品の拡充に努めます。



SMIK 株式会社

2013年7月発行

本報告書は、用紙にFSC認証林および管理された森林から製品化されたFSCミックス認証紙を用い、インキには有害なVOC(揮発性有機化合物)を排除し、ほぼ100%植物油を材料としたベジタブルインキを使用、印刷方式にはアルミ板をリユースする「マイナスカーボン・プリンティングシステムズ」を採用しています。



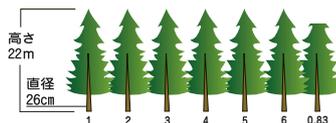
この環境報告書は、印刷プロセスで使用する6.24kgのアルミ板をリユースする事で、**CO₂排出量を95.24kg削減しました。**



当CO₂削減認定は株式会社日本スマートエナジー社がこの印刷システムを厳格・公正に審査・確認して与えられたものです。

 この印刷物は、E3PAのゴールドプラス基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています。E3PA:環境保護印刷推進協議会 <http://www.e3pa.com>

 **ミックス紙**
FSC FSC® C016261



95.24kgのCO₂削減量とは樹齢50年(高さ22m・直径26cm)の杉の木約6.83本分が1年間に吸収するCO₂量に匹敵します。

(出典：林業白書)